



一般財団法人

セブン-イレブン記念財団

この活動は、一般財団法人セブンイレブン記念財団の
助成を受けています。

2016年12月22日

小学生のためのエコ学習トランク環境教室反省会報告書

日時：12月21日（水）11：00～12：00

場所：宇部市地球温暖化対策ネットワーク

出席者：名越、殿河内、兼久、太田、松井

議事まとめ

1. 紙芝居制作

- ・ストーリーに一貫性が必要
- ・生物多様性紙芝居は食の連鎖をテーマに意識し作成

2. 紙芝居とスライドの違い

- ・紙芝居とスライドの読み方に違いはないが目線が違う。紙芝居は前を見て、スライドはスクリーンを向いて話す。
- ・人数や会場の大きさに紙芝居とスライドの使い分けが必要。
- ・紙芝居は20人くらいが限界。どこでもできる点が良い。
- ・両方あると、集中力が分散する。
- ・図書館はプロジェクターの映像の方が良く見えてよい。
- ・プロジェクターの使い方を工夫すればもっと面白いものができそう。

3. お話

- ・溝田先生の話は、身近な自然の話で子どもの興味を引いた。話が次の生物多様性の紙芝居に繋がっていて良かった。
- ・ゴミ問題では、イントラと本編のテーマが食い違っていた。全体のストーリー性が必要。
- ・テーマに添った話ができる講師が中々見つけ難い。
- ・話しの仕方、本編のテーマに繋げられるのでは。

4. 紙芝居の内容

- ・薄井先生が傍聴（西宇部学童保育クラブ）されたコメントに、炭酸ガス吸収実験や手回し発電による省エネ実験で、実験の目的が子どもたちにきちんと理解されないため集中力がきれてしまったと書いてある。子どもたちがきちんと納得できる説明をする必要がある。
- ・薄井先生のコメントの続きに、プレゼンテーションの内容が多すぎて、子どもの疑問に答える時間をスキップしていると指摘あり。
- ・これまで地球温暖化問題全般をテーマに1時間掛かっていた紙芝居が「地球温暖化・省エネ」「ゴミ問題」「生物多様性」の3テーマにして30分でやれるようになった。
- ・実験は、目的が子ども達に分かるような伝え方を工夫する。
- ・ゴミ問題では、ゴミの分別の種類が多すぎた。
- ・子どもたちはゴミの分別に興味をもってやっていた。
- ・ゴミ問題で何が一番重要か？（リサイクル、リデュースの答えがでた）
- ・生物多様性では、紙芝居の内容をビデオでもう一度説明しており良く理解できた。



- ・論点を絞って、問題点の提起も必要
- ・生物多様性は、食の連鎖に的を絞る
- ・生物多様性の問題は日常生活と乖離しており馴染み難い。
- ・生物多様性で必要な生物と不要な生物をどこで区別するのか判断するのが非常に難しい。
- ・子どもたちの自然に親しむ心が育てばよい。
- ・「地球温暖化」紙芝居でするメッセージの横幕は字が小さく手見え難い。検討してみても。
- ・温暖化ポンチョは夏場汗をかくので使用後干してから仕舞う。
- ・各校区で朗読や読み聞かせをしている方々が、エコ学習トランク紙芝居を要望されるようになれば良い。これからも内容を充実していきたい。
- ・スライドは改良できるが、紙芝居はお金が掛かるため難しい。

5. その他

- ・〇〇ボックスは子どもたちが自分たちで箱を作り、終われば畳んで収納してくれる。子どもたちも面白そうにやっているの、自前で持つように準備している。
- ・最初作ったプロペラペットボトルソーラーカーが進化している。
- ・発泡スチロールをエコ・ソルブに溶解して粘土を作る実験は、粘土が固まるのに時間が掛かり難い。東岐波の時は教室で溶解だけし、UNCCA に持ち帰り粘土を作って、持って行った。今後の方法として、溶解をして、その後にあらかじめ UNCCA で作っておいた粘土で工作するのがいいのでは。
- ・発泡スチロールが粘土になるまでの過程を標本にして見せてもよい。
- ・エコ学習トランク教室の実施時期は夏休みに集中する。
- ・学童保育クラブ以外で実施したい。夏休みは内容が教育から遊びになりやすい。
- ・他の時期の開催は、春は準備が間に合わない。冬休みに環境教育をされている例もある。
- ・来年度は、テーマ別にエコ学習トランク教室を3回行う予定。



以上
(文責 松井)